

看護学教育評価
評価報告書

受審校名 淑徳大学看護栄養学部看護学科
(評価実施年度) 2021 年度
(作成日 2022 年 3 月 11 日)

一般財団法人 日本看護学教育評価機構

I. 総合判定の結果

(適合 不適合 保留)

認証期間：2022年4月1日～2029年3月31日

II. 総評

淑徳大学看護栄養学部看護学科は、2007年に看護学部看護学科が開設され、2012年には栄養学科の開設に伴い看護栄養学部看護学科へと組織改編が行われ現在に至っている。大学の目的である「大乘仏教の精神に基づき、社会福祉の増進と教育による人間開発、社会開発に貢献する人材の育成」、および建学の精神である「利他共生」の大乘仏教の精神を踏まえ、看護栄養学部では「人々の健康の保持増進と病む人の生活を支えるために、看護学又は栄養学の分野において、専門性の高い知識、技術および豊かな対人能力を身に付ける」ことを教育目標とし、大学の教育方針に整合した看護学教育を行っている。

教育課程は、理念・目標、ポリシーと一貫しており、学年進行に伴い専門性のより高い科目で構成するなどの階層的で適切な編成となっている。また、立地する地域の特性やニーズも踏まえて教育目標が設定され、関連づいた専門科目も設定されている。さらに、初年次教育では、入学候補者への入学前セミナーや入学時オリエンテーションなどの教育上の配慮が積極的に行われている点は、新入生が大学で学ぶ上での準備性を整えるための取り組みとして評価できる。

教育内容として、シラバスには各科目の到達目標が明示され、到達レベル、評価方法、評価者、評価基準が記載されることで、教授者と学習者が教育課程における重要情報を共有できるように整備されている。学生が主体的に学ぶための工夫として、ルーブリックが活用されている。学生は、学士カールブリック、コモンルーブリック(記述力やプレゼンテーション力等)、臨地実習ルーブリックを用いて、入学時から定期的に自己評価を行っている。教員にはFDで、学生には毎年のオリエンテーションでルーブリックの周知・指導が組織的に行われて学生の主体的学習の助けになっている。また、臨地実習における個人情報の管理やハラスメント予防の取り組みとして、学生に理解できるよう実習要項にガイドラインが示されている。なかでも、実習時に発生する傷害や損害については1年次から教育が徹底され、実際の事例を漫画で説明するヒヤリハット事例集を独自に作成し、指導している点は、優れた取り組みと評価できる。教員による近隣地区での健康講話や子ども食堂、マタニティクラスなどの地域のニーズに応じた多彩な地域貢献が組織的に継続されていることも優れた点と評価できる。

教育課程の評価は、教育目標、ディプロマ・ポリシー(以下、DPとする)に基づき、教務委員会、カリキュラム検討委員会、学部教育向上委員会、実習委員会、自己点検・評価委員会が連携し、PDCAサイクルのもとに実施されている。学習に関わる各種データの中には複数のルーブリックがあり、学生の能力獲得状況を把握することを助けるツールとして特色ある内容となっている。それらを含む学習成果データ、定期的に行われる卒業生からの評価、学生生活調査の評価の結果は、大学ホームページにも掲載され、改善・改革につながる態勢が整えられている。

入学者選抜については、アドミッション・ポリシー(以下、APとする)が明示されている。APを反映した入学選抜になっているかについては学部入試・広報委員会、IR推進室および大学改革室、大学学生厚生委員会等により検証が行われている。

一方で、検討を要する課題も見受けられる。DPは、教育目標全体に整合しているが、【看護学分野における知識・技能・態度】の(1)については、抽象度が高いために教育目標の各項目との密接な関連や卒業時に獲得している能力の明示、教育内容との関係は必ずしも明確ではないといった課題がある。また、(2)については、看護師、保健師の資格に関する記載も認められる。したがって、DPの具体化と卒業要件と矛盾のない表記について検討し、改定することが望まれる。カリキュラムマップについては、看護学教育課程が体系的に示されているとは言えず、教育課程に関する学生の理解が促進されるように、カリキュラムマップの内容と示し方を検討する必要がある。

なお、「自己点検・評価報告書」には現状と改善への取り組みが事実即して記載されていた。DPおよびカリキュラムマップに関する課題の記載は自己点検評価報告書にはなかったが、実地調査において課題の認識および看護学科としての改善に向けた努力が確認された。

今後は、これらの課題を検討するとともに、特色ある取り組みを継続することで、看護学教育をさらに発展させていくことを期待する。

以上